令和4年度　学校関係者評価書（様式）

鈴鹿市立庄野小学校　　　　NO.

<table>
<tr><th>評価項目</th><th>本年度の活動（具体的な手立て）と指標</th><th>学校関係者評価</th><th>今後の改善点</th></tr>
<tr><td>学力向上</td><td>〇年3回の授業研究会の実施
〇学力向上の取組
・全国学力学習状況調査
・みえスタ　ディ・チェック　・学習時間ぐんぐんアップ活動
・チャレンジタイム　・補充学習　・外部人材による出前学習
・家庭学習充実のための手引きの配付
〇読書活動の充実

（成果と課題）
〇低中高学年で算数研究授業3回実施できた。
《目標「授業がわかる」80%以上➡アンケート結果89．9%》
〇学力向上の取組を計画通り実施。
《目標「学調全国平均に到達」➡結果「国語・算数は全国平均を上回る」「理科は0．5ポイント下回る」》
・家庭学習 《目標「家庭学習をしている」95%以上➡結果90．8%》
〇読書活動
・ふれあい読書　・読書ビンゴ　・読書ボランティア　・図書館祭等実施
《目標「1人年間35冊➡結果「3月までの概算」38．7冊》</td><td>なぜ楽しくないのか。なぜ分からないのかを確認・分析し，対応に結び付けてほしい。

豊かな学びのために，外部人材による学習体験を継続してほしい。

図書室入り口の掲示物『いちおし』の取組は良い。子どもの素直な感想が，私も読んでみたいという意欲につながっている。</td><td>全国学力学習状況調査・みえスタディチェックの早期分析と課題の把握に努めたい。

楽しい理科教育の充実を考えていきたい。

家庭学習について保護者への働きかけを強化したい。

家庭学習・ 自主学習の取り組み方を周知したい。</td></tr>
<tr><td>ICTの活用</td><td>〇ICTを活用した授業の実施
・パソコンを活用した授業を本格実施
・キーボードのタイピング技能向上
・インターネットによる調べ学習
・ドリルパークを使っての基礎学力の定着・習熟度に応じた学習
・ジャムボードを使っての文字入力による対話的な深い学び
・宿題の作文や日記などをオクリンクで教師に送信

（成果と課題）
〇ICTを活用した授業は毎日実施した。
・授業でのChromebookの活用が進んだ。
・子どもはパソコンの学習を楽しみにしている。
・学年に応じた情報モラル学習を実施できた。
・学年・学級によるパソコン活用頻度のばらつきが見られる。</td><td>被災した時や学校閉鎖の時に，リモート学習ができるように訓練しておいてほしい。1年生も，
ICTを使いこなせるようになってほしい。

４年生児童は，パソコンを使いこなしている。パソコンで調べ学習をしたり日記を作ってオクリンクで提出したりすることができている。1年生児童も先生に教えてもらった通りにきちんと使っていた。

今後，他校との交流を行い，更にICTの授業への活用を工夫してほしい。</td><td>ICT研修の充実・意識的な活用に取り組みたい。

Chromebook持ち帰り回数増加に備えた情報モラル学習の徹底を心がけたい。</td></tr>
<tr><td>不登校</td><td>〇長期欠席傾向にある児童への支援
・支援員・SLS・養護教諭の関わり
・児童・保護者へのカウンセリング
・外部機関との連携

（成果と課題）
〇対象児童が，1～3時間でも保健室登校できるようになった。
・安全安心な居場所，学校・学級づくり。
・カウンセリングにより本人・保護者ともに安心感を持つことができた。
・外部機関（子ども家庭支援課，けやき，通級教室）との連携が効果的に働き，家庭に閉じこもることなく過ごせた。</td><td></td><td>不登校傾向にある児童の居場所づくりを充実したい。

個々の児童に最適な支援の在り方を検討したい。</td></tr>
<tr><td>地域連携</td><td>〇家庭や地域に開かれた学校
・学校だより，学年だより，保健だより等の充実・ホームページの更新
・年3回の学校公開（授業参観含む）・年2回の学級懇談会
〇中学校区小中連携・学校運営協議会・PTA活動
・学校支援ボランティア
〇地域との交流学習推進

（成果と課題）
〇各種たよりや懇談会などで，情報を発信できた。
《目標「学校は教育方針や取組を分かりやすく伝えている」50%以上➡結果96．4%》
〇各組織と十分な連携を行うことができた。
〇地域との交流学習を実施
・1年芋植え・芋ほり・2年町探検・3年カローリング・4年ホタル・5年バケツ稲・多文化・6年庄野宿見学 《目標「各学年1回以上」➡結果100%》</td><td>学校運営協議会・PTA・まちづくり協議会の連携を図っていけると良い。

PTA仕作業の時にまちづくり協議会も樹木剪定で参加していく。また，飲料代についてもまちづくり協議会で考えていきたい。

地域との交流学習は継続してほしい。また，児童が地域から何を学びたいか，何を体験したいのか確認してもらえると良い。</td><td>様々な活動が，平常に戻りつつあり，保護者の参観については，教育委員会 からの指示に基づき検討していく。

来年度も感染拡大の状況を注視しながら，工夫して取り組み，コロナ禍以前の状況に近づけていく。

児童に，何を学びたいか何を体験したいか聞いていきたい。</td></tr>
<tr><td>働き方改革</td><td>〇勤務縮減に向けた会議や行事の精選・見直し
・コンプライアンス向上を目指し，何でも話せる職場づくり
・職員会議：議題を精選し，60分以内で実施
・定時退校日毎月2回
・時間外労働一人当たり
・月に45時間以内(平均時間30時間以下)年間で360時間以内
・積極的な休暇取得

（成果と課題）
〇勤務縮減に努力できた。
・職員会議《目標「60分以内に終了する会議」70%➡結果「3月までの概算」70%》
・定時退校《目標「定時に退校」90%➡結果「3月までの概算」70%》
・校時の見直し，会議時間短縮や会議・行事の精選で，週当たりで2時間30分の放課後時間増加を確保。
・時間外労働《目標「45時間以上」0%➡結果0%》
・休暇取得《目標「一人22日以上」➡結果「3月までの概算」23．5日》</td><td>時間外労働の縮減については，どんなことに何時間かかったのかをはっきり割り出して取り組むと良い。
そこから何を削減するべきか検討していくことができる。

仕事量が多すぎるなら，何かを削らないと時間外労働の縮減は無理。

時間内に仕事をやり切るなら，人員を増やす必要がある。

教員を増員するのは簡単なことではないが，オーバーフローしている部分を真剣に見ていかないと改善することはできない。

人員を増やせないなら，『仕事を，減らす・替える・削る』しかない。

労組に力があると，定時退勤日を守るように見回りが行われている。ぜひ自分たちで意識を変えてほしい。</td><td>教職員に，どんな仕事に時間がかかっているのかアンケートを取るなどして，削減すべき仕事を検討していきたい。

新型コロナウイルスの感染拡大状況により，判断が難しい事案に，議論する時間がかかる傾向にある。意見の集約と交流，決定までの過程が円滑に進められるように，検討していきたい。

定時退校日に対する意識を高めていきたい。</td></tr>
</table>